

# Flying Disc Times

VOL.86('10.12)

第35回全日本アルティメット選手権大会 予選・本大会 .....	1
第35回全日本アルティメット選手権大会 決勝 .....	5
第20回全日本学生新人アルティメット選手権大会 .....	10



## 第35回全日本アルティメット選手権大会 予選・本大会

2010年9月から10月にかけて、各地で全日本アルティメット選手権大会の予選・本大会が開催された。各地の大会の様を追った。



### 西日本地区予選

西日本地区予選は9月18日から20日までの3日間、堺市みなと堺グリーン広場に開催された。

#### 【オープン】

全日本本戦出場常連の大阪スピリッツや学生選手権優勝の大阪体育大学 BOUHSEARS が順当に勝ち上がるなか、和

歌山大学 NAKED Brothers や関西学院大学 ARROWS などの台頭が印象的だった。和歌山大学 NAK

ED Brothers は予選リーグ TRIGGER と 16 対 14 の接戦に勝利すると、その勢いをそのまま決勝トーナメントでも発揮し、岡山大学との 1 回戦を 15 対 10 で勝利して全日本本戦出場を決めた。準決勝では惜しくも学生選手権優勝の大阪体育大学に 12 対 17 と敗れはしたものの、西日本地区でその存在を遺憾なく発揮した。

また、関西学院大学 ARROWS は決勝トーナメント 1 回戦で tibets と 14 対 13 と勝利し、その tibets は 5 位決定戦(本戦出場 5 枠)を 17 対 15 で勝利して本戦出場を決めた。なお惜しくも本戦出場を逃したが岡山大学 BLACK HAWK の検討も目を引いた。

#### 【ウィメン】

学生選手権 2 位の大阪体育大学 BOUHSEARS が、決勝戦でも 17 対 9 と Buddy's を寄せ付けない強さを見せて 1 位で予選を通過した。敗れはしたものの本戦出場常連の Buddy's は準決勝での博多ハッカーズ戦では 17 対 9 と安定した実力を見せていた。一方、3 位決定戦では、予選リーグでびわこ成蹊スポーツ大学 LAKERS との試合を接戦で勝利した関西学院大学 ARROWS が、博多ハッカーズに 17 対 13 と勝利した。また、5 位決定戦では龍谷大学 ROC-A-AIR が近畿大学 MAFFIA に勝利して本戦出場を決めた。



※写真は、全日本選手権 決勝より

### 中部地区予選

中部地区予選は 9 月 18 日から 20 日までの 3 日間で、岡崎中央総合公園 多目的広場にて開催された。

#### 【オープン】

信州 R o o t s は準決勝での A. G. F u n k s 戦を 14 対 12 で勝利すると、決勝戦では、予選リーグで一度対戦した中京大学 F L I P P E R S と再度対戦することとなった。試合の結果は 17 対 6 と及ばなかったものの、3 年ぶりとなる全日本選手権本戦出場を獲得したその戦いぶりはずばらしかった。

また 3 位決定戦(本戦出場 3 枠)では A. G. F u n k s と Link が対戦、最後の 1 枠を賭けた対戦であっただけに、両者白熱したプレーを見せていた。17 対 16 で接戦を制したのは A. G. F u n k s、全日本社会人選手権でも両者は対戦しているが、17 対 16 で A. G. F u n k s が勝利している。A. G. F u n k s が意地を見せたかたちとなった。

#### 【ウィメン】

学生選手権優勝の中京大学 Naughty Kids と昨年の覇者であり、世界アルティメットクラブ選手権大会 2010 準優勝の壱の 2 チームが圧倒的な強さを示してくれた。壱に至っては 4 試合の総失点数が 10 (1 試合平均失点 2.5 点)という驚異的な強さで勝ち上がった。中京大との試合でも、17 対 8 と学生選手権覇者中京大学 Naughty Kids さえも寄せ付けない強さを見せてくれた。

## 東日本地区予選

### 【オープン】

1次予選が9月18・19日、2次予選が9月25・26日茨城県ひたちなか市で開催された。2次予選では前日から接近した台風は25日の当日に上陸、1回戦8試合全てを15:00～同時に開始という異例の事態のなか行われた。

加えて、本戦参加出場枠数が8チームと、昨年より1チーム少ないという厳しい状況で、2次予選に進出した16チームが1回戦から白熱した試合を展開してくれた。なかでも、日本体育大学 BARBARIANS 対東京 Vegegriffons の試合は、序盤ペースを掴んだ東京 Vegegriffons を後半日本体育大学 BARBARIANS が巻き返す試合展開で17対15で本戦への切符を手にした。またサムライと DISCMANIA の試合では、試合巧者の DISCMANIA に逆転で勝利したサムライが14対12で本戦初出場を決めた。

### 【ウィメン】

9月18日～20日までの3日間 茨城県ひたちなか市で開催された。

MUD に在籍していた選手を中心に結成された初出場の Seven Colorz が予選 C リーグにおいて日本体育大学 BARBARIANS と対戦。14対13と接戦をものにして、結成1年目からの本戦出場を決めた。Seven Colorz は準決勝で HUCK に敗れはしたものの、3位決定戦でえびみりん戦に12対7で勝利して東日本地区3位という結果を残した。

上位4チームを社会人チームが占めるなか学生選手権3位の日本体育大学 BARBARIANS が BOMBERS に勝利して5位、学生選手権4位の宇都宮大学 CHAOZ☆が TRIGO に勝利して6位と学生の意地を見せてくれた。最後の1枠は上智大学 FREAKS が立教大学 MANEUVERS との試合を14対12の接戦で制して、上智大学 FREAKS 結成30周年の記念すべき年に出場を決め花を添えた。

## 本大会

10月16・17日に静岡県富士市富士川緑地公園で開催された。

### 【オープン】



1回戦を順当に勝ち上がった社会人選手権・学生選手権の上位チームが対戦。学生選手権決勝戦と同カードとなった中京大学 FLIPPERS 対大阪体育大学 BOUHAEARS は17対10で大阪体育大学 BOUHAEARS が勝ち上がり、東日本予選7位の日本体育大学 BARBARIANS が同3位のθを破るという下剋上を果たした。

11連覇中の文化シャッター BuzzBullets は危なげなく大阪スピリッツ戦に勝利。またここ数年決勝戦に進出し続けている BARBARIANS を LOQUITOS が破り社会人選手権2位の

実力を再度発揮した。

準決勝は文化シャッター BuzzBullets 対大阪体育大学 BOUHAEARS、LOQUITOS 対日本体育大学

BARBARIANS の組合せとなった。若手中心のセットと経験者中心の 2 セット編成で勝ち上がってきた文化シヤッター BuzzBullets だが、今大会初めて苦戦を強いられる。これまでの試合は前半で得点差を広げ対戦相手の勢いを削いできたが、なかなか点差が広げられない、その流れは後半まで続いたが、最後は自力に勝る文化シヤッター BuzzBullets が 17 対 14 で学生王者 大阪体育大学 BOUHAEARS を破り決勝戦進出を決めた。

ここ数年決勝戦は社会人チーム同士の対戦カードになっていたが、大方の予想を裏切り日本体育大学 BARBARIANS が LOQUITOS に対して、社会人さながらの試合展開をみせて決勝戦進出を決めた。後半に強い社会人チームにことごとく勝利したその試合運びに 1 試合 1 試合成長していくと共に、彼らが勢いだけでない事を証明してみせてくれたのではないだろうか。

## 【ウィメン】



壺・HUCK・MUD という 3 強が危なげなく準決勝進出を決めるなか、ベスト 4 最後の一つを争って中京大学 Naughty Kids と大阪体育大学 BOUHSEARS が対戦、奇しくも学生選手権決勝と同カードとなったこの 1 戦は（学生選手権決勝では 13 対 11 で中京大学 Naughty Kids が優勝している。）大阪体育大学 BOUHSEARS が、15 対 12 で雪辱を果たし学生チーム唯一のチームとして HUCK と決勝戦進出をかけて戦う事となった。その HUCK との一戦は 17 対 12 で HUCK が勝利した。惜しく

も敗れはしたものの、大阪体育大学 BOUHSEARS の健闘は大いに讃えられるものであった。

準決勝もう一方のカードは壺対 MUD、因縁の対戦ともいえるこの一戦、7 月に行われた世界クラブ選手権大会で準優勝の壺は、8 月の社会人選手権決勝で MUD に敗れている。壺が世界 2 位の意地を見せるのか、はたまた社会人選手権同様に MUD が勝ち上がるのか！注目の戦いは、15 対 11 で壺が勝利、全日本選手権大会連覇に HUCK との最後の 1 試合を残すのみとなった。



## 第35回全日本アルティメット選手権大会 決勝



2010年10月23日(土)夢の島競技場(東京都江戸川区)にて、文部科学大臣杯 第35回全日本アルティメット選手権大会 決勝戦が開催された。

この日は晴天に恵まれ、適度な風。まさにアルティメット日和である。このような天候の日是非常にレベルが高い試合が展開されることが多く、まさに決勝戦にふさわしい舞台が整った。また今年はクラブ選手権やU23選手権など3つの世界大会が開催され、ア

ルティメットイヤーとなった2010年。世界で貴重な経験を積んだ選手たちが、この決勝戦でどのようなプレーをみせてくれるのか注目が集まった。

### ウィメン決勝



ウィメンの部は、世界クラブ選手権大会で準優勝を収め、全日本選手権2連覇を狙う壱と、準決勝で強豪MUDを破り、3年ぶりの優勝を狙うHUCKとの対戦となった。

HUCKのオフェンスから始まったこの試合は、HUCKのキャッチミスから、速攻オフェンスでブレイクした壱が最初の1点をとった。壱の最大の強みであるスピードを生かしたオフェンスであった。その後3-2まで両者譲らない展開となるが、次のターンで壱がゾーンディフェンスをひくと、HUCKのロングシュートが決まらずターンオーバーを獲得。逆に壱のロングシュートが決まり、4-2と

点差を上げた。HUCKが壱のゾーンディフェンスを攻めあぐねる中、壱は勢いに乗り一気に5連取、9-2で前半を折り返した。

後半は壱のオフェンススタート、この1点を死守しブレイク出来るかがHUCKにとっては重要な局面。選手たちもそれを重々理解しており、ターンオーバーを繰り返す長いターンとなったが、この1点を壱が得点し10-2とした。

その次のターン、HUCKは原選手がキャラハンゴール(相手陣地のゴールエリアで、相手チームのパスを直接キャッチすると得点となる)で得点し会場を沸かせた。ビッグプレーは試合の流れを変える力を持つ。次のターンも原選手のロングシュートが決まりHUCKが2連取し、10-4と喰らいついた。



しかしその後は壱がスピードを生かしたロングシュートなどで3連取し、13-5と点差を上げた。決勝点まで1点となった16-6の局面では、両チーム必死の攻防をみせHUCKが意地の1点を返したが反撃もそこまで、最後はきれいなロングシュートで壱が得点、17-7でHUCKを下し、2年連続の全日本優勝を果たした。

## オープン決勝



オープンの部は、全日本優勝12連覇を狙う文化シャッターBuzzBulletsと、実に10年ぶりに学生チーム全日本決勝進出を果たした日本体育大学 BARBARIANSの対戦となった。

日本体育大学は、世界U23アルティメット選手権の準優勝メンバーを多く擁す。世界大会で培った試合運びで、全日本本戦では強豪社会人チームをことごとく倒し、東日本予選7位ながら全日本決勝進出を果たした。まさに乗りに乗っているチームだ。

NomadicTribeが、この数年間チャレンジして成し得なかった全日本決勝での打倒文化シャッターの夢を、若いパワーがなし得るか、非常に興味あるカードとなった。



決勝戦は、文化シャッターのオフェンスから始まった。順調に1点をあげ、1-0で迎える日本体育大学の最初のオフェンス。全日本決勝戦の大舞台では文化シャッターの鉄壁のディフェンスに対し、いかに前半崩れずにオフェンスキープが出来るかが鍵となる。若い日本体育大学が最初の1点が取れば、勢いに乗ることが出来るだろう。しかし1本目のパスが通らず、簡単に1点を献上してしまい2-0となる。なかなかペースをつかめない日本体育大学に対し、文化シャッターは危なげないオフェンスで得点を重ね4-0と、

いつもの文化シャッターらしい試合運びを展開した。

この後1点を獲得した日本体育大学は、続くターンで鋭いインサイドシュートを決め、2連取で4-2まで戻す。しかしすぐ文化シャッターは松野選手の技ありのシュートで得点し5-2とし簡単には乗らせない。その後日本体育大学は6-4までイーブンペースを保つ。果敢なオフェンスを展開し、危ないシーンがありながらもキャッチ力で繋ぐ学生らしい戦い方で王者にくらいつくが、その後3連取され9-4で前半を終えた。

後半は、落ち着きを取り戻した日本体育大学が1点目から得点し、得点差は広がらず12-7までお互いにオフェンスキープの展開となるが、前半に5点リードした文化シャッターは、余裕をもった試合運びを続け、その後じりじりと点差を広げる。最後は17-8で日本体育大学を破り、全日本選手権12連覇を達成した。





今年の全日本選手権は、オープン、ウィメンともに点差がついた結果となった。世界アルティメットクラブ選手権オープン3位の文化シャッター-BuzzBullets、ウィメン決勝で1点差で惜しくも敗れた壱、共通点は走力だ。両チームとも世界大会での躍進の鍵は強力なディフェンスにあると言えるだろう。まさにそれを見せつけてくれた試合であり、そのディフェンス力によって開いた点差であろう。非常に見ごたえのある決勝戦であった。

来年はどのチームがこの2チームにチャレンジするのか。ディフェンスに負けない強靱なオフェンスキープ力と、相手を苦しめるディフェンス力。今年の本戦では大阪体育大学が文化シャッターを最後まで苦しめるいい試合をした。学生の走力を生かしたディフェンスは、今年ヒントを与えてくれたと思う。これからの若いチームの活躍が楽しみである。

**オープン 優勝 文化シャッター-BuzzBullets**



**ウィメン 優勝 壱(UNO)**



**オープン 準優勝 日本体育大学 BARBARIANS**



**ウィメン 準優勝 HUCK**



**個人賞**

**オープン MVP 松野 政宏 選手(文化シャッター-BuzzBullets)**

**ウィメン MVP 米原 理恵 選手(壱)**



**オープン 敢闘賞 草野 潤 選手(日本体育大学 BARBARIANS)**

**ウィメン 敢闘賞 原 麻衣子 選手(HUCK)**



## 本戦結果

オープンの部		ウイメンの部	
優勝	文化シヤッターBuzzBullets	優勝	杏(UNO)
2位	日本体育大学BARBARIANS	2位	HUCK
3位	大阪体育大学BOUHAEARS	3位	MUD
4位	LOQUITOS	4位	大阪体育大学BOUHSEARS
5位	BARBARIANS	5位	中京大学Naughty Kids
6位	大阪スピリッツ	6位	Seven Colorz
7位	θ	7位	日本体育大学BARBARIANS
8位	中京大学FLIPPERS	8位	えびみりん
9位	関西学院大学ARROWS	9位	BOMBERS
10位	上智大学FREAKS	10位	Buddy's
11位	A.G.FUNKS	11位	宇都宮大学CHAOZ☆
12位	和歌山大学NAKED Brothers	12位	上智大学FREAKS
13位	TIBETS	13位	TRIGO
14位	サムライ	14位	博多ハッカーズ
15位	CREWS	15位	龍谷大学ROC-A-AIR
16位	信州Roots	16位	関西学院大学ARROWS

## 第20回全日本学生新人アルティメット選手権大会



全日本学生新人アルティメット選手権大会が2010年11月6、7日富士川緑地公園（静岡県富士市）にて開催された。

学生連盟が発足した九州支部を中心に新たに参加した大学を加え、参加校の数はOPEN・WOMEN部門合わせて85校に達した。2日間で行うため1日に数多くの試合をこなさなければならない厳しい試合日程となったが、選手たちが目の前

の試合に全力で取り組む姿勢が随所に見られた。今大会はスタッフとして色々な大学の試合を観戦したが、基礎的な技術をしっかり身につけている選手が多くハイレベルな大会であった。8月にドイツで行われたU19世界大会に出場した選手の多くが今大会にも出場しており、早くも同年代の選手に影響を与えているのだろう。

### WOMEN 部門

WOMEN部門には39校が参加した。例年言われているのかもしれないが1校1校の選手の数が少ないということを感じた。10名以下で参加している大学も多く、特別参加申請で出場している上級生も数多くみられた。そのような大学にとって今大会を戦い抜くためには選手一人ひとりに負担がかかり、疲労で力を出し切れなかった選手も少なからずいるのではないだろうか。アルティメットというスポーツにおける新入部員獲得の難しさをあらためて痛感した大会となった。

昨年度から大きく順位を上げたのが8位の国際基督教大学 Winds（昨年度25位）と準優勝の日本大学 Hummingbirds（昨年度22位）。1、2年生主体のため元々浮き沈みが激しい大会ではあるものの、下位の大学が実力をつけ上位に食い込むことは他の大学に刺激を与え、WOMENの部は今後さらにレベルアップしていくだろう。

### WOMEN 決勝（大阪体育大学 BOUHSEARS 対 日本大学 Hummingbirds）



決勝戦に駒を進めたのは学生選手権で準優勝を果たし大阪体育大学と2年生2人1年生6人と少ない人数ながらもトーナメントを勝ち進んだ日本大学。日本大学の戦術は思い切りのよいシュートとゾーンディフェンス。対する大阪体育大学はゾーンに対しシュートで対応する。

両校思うようにシュートが通らずターンオーバーを起こすが3-2まではお互い何とかキープする展開となる。しかし日本大学がその後のオフenseで立て続けにハンドラーのミスでターンオーバーを起こし連続ブレイクされ5-2となる。次のオフenseをキープし5-3とするも大阪体育大学11番の池

治ちあき選手（MVP選手）が効果的にパスを引き出しオフenseにリズムが生まれ始めた。日本大学は競り合い

ながらもロングシュートをキャッチし食らいつくが大阪体育大学の高い技術を生かしたオフェンスを止める糸口がつかめない。試合はそのままオフェンスキープが続き 8-5 で大阪体育大学が勝利。2年ぶりの優勝を決めた。

## OPEN 部門

OPEN 部門には 47 校が参加。夏の学生選手権で素晴らしい結果を残した西・中部支部の大学が今大会でもベスト 4 を独占するなど、その力を十分に発揮した。東日本支部の大学では昨年優勝の上智大学に加え、国際基督教大学・國學院大學・獨協大学など近年上位から遠ざかっている大学がベスト 8 に入り成長をうかがわせた。また 9 位以下の大学も僅差で敗れた大学ばかりで今後の勢力図がどうなるのか非常に楽しみである。

## OPEN 決勝（大阪体育大学 BOUHSEARS 対 和歌山大学 Naked Brothers）



OPEN 決勝には学生選手権で優勝した大阪体育大学と 7 位と上位に食い込んだ和歌山大学が進出。お互いマンツーマンディフェンス主体で安定感のあるハンドラーを擁し、引き締まった試合となった。

先制したのは和歌山大学。相手ハンドラーのミスを実に得点につなげた。次の 1 点もブレイクし 0-2。このまま突き放すのではないかと思われたが大阪体育大学は焦らずに立て直し 1 点を返すと、ディフェンスから徐々にペースをつかみ始める。和歌山大学が 2-4 と 2 点リードの状況でゾーンディフェンスを仕掛け突き放しにかかるが、大阪体育大学は動じず 23 番の木下豪選手を中心に確実にパスを

つなぎこれをキープ。すると次の点をブレイクし同点、さらに 24 番の村瀬健選手（MVP 選手）の素晴らしいシュートが決まりついに 5-4 と逆転に成功。一度は追いつかれるもその後のオフェンスをしっかりキープし 6-5 で大阪体育大学が勝利を収めた。優勝した学生選手権に引き続き新人戦でも高い個人能力とチーム力を証明した。

（広報部 3 年 堀 克秀）

**JEDA**  
JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

NPO法人 日本フライングディスク協会

本部 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 4-20-24

『Flying Disc Times』VOL. 86(平成 22 年 12 月 28 日発行)

発行人・師岡 文男／企画 編集・企画本部

協力：日本学生フライングディスク連盟 広報部